

那賀町林業の成長産業化を目指して

徳島県那賀町



那賀町の森林

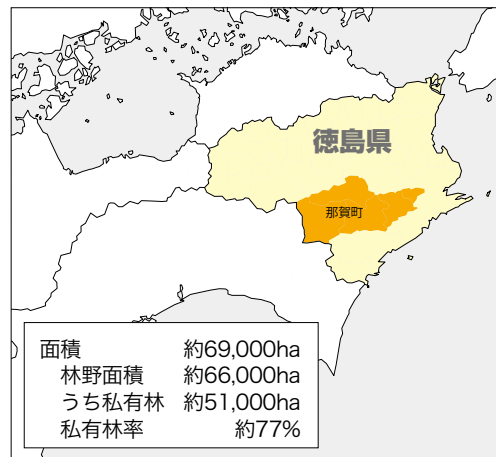
1 那賀町の森林・林業

那賀町は徳島県の南部に位置し、西から東へ流れる那賀川を跨ぐように集落が点在する急峻な森林に囲まれた町です。古くからスギを主とした林業生産活動が盛んで、全国的に「木頭林業」

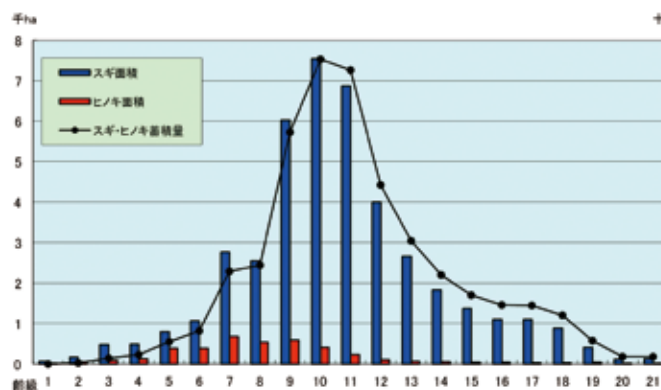
2 那賀町林業マスタープランを策定

昭和40年代から50年代には、木材価格が高値に推移し、当町では素材生産量が年間20万m³を超えるなど、主力産業として町内経済を支えてきました。

として広く知られ、林業が地域の基幹産業として大きな役割を果たしてきました。森林面積は約66,000haであり、町面積の95%を占めています。そのうち約46,000haがスギ・ヒノキの人工林となっており、森林資源量は2,400万m³に達しています。



林業従事者数と素材生産量の推移



スギ・ヒノキ人工林年齢別面積及び蓄積量

しかしながら、長期に渡る木材価格の低迷などにより、平成17年には、素材生産量が約5万m³/年にまで落ち込み、加えて林業労働者が139名にまで減少するなど、林業の存続が危惧される状況にありました。そこで、「木頭林業の再生」を目標に掲げ、平成23年に「那賀町林業マスタープラン」を策定するとともに、翌年には林業振興

課内に森林管理の専門組織を立ち上げ、森林整備を進めることによる豊富な森林資源を活用した地域振興を図るための取組をスタートさせました。さらに平成28年には、このマスタープランを実現する拠点として、那賀町林業ビジネスセンターを整備するなど林業を中心とした地域連携を進め、町全体の活性化・地域再生に取り組みしていま



那賀町林業ビジネスセンター



「リアル林業体感3DAYS」の様子



タワーヤードによる集材



木材集材場

3 起業化と人材養成の促進

す。マスタープラン策定から今年で6年目を迎え、50年生を超えるスギ・ヒノキの人工林面積は14,534haから21,101haと約1.5倍、資源量に至っては約2.1倍(13,311千m³)に増加するなど、那賀町の森林・林業を取り巻く情勢は大きく変化しました。こうした状況の変化に伴い、林業の成長産業化を目指したマスタープラン実施項目の再構築と拡充・強化を図り、取組を更に加速させることとしています。

4 効果的な木材生産の実施

習など森林・林業への理解を深め、森づくりエイト科進学への支援を行っています。さらに、県内外一般者を対象とした「リアル林業体感3DAYS」を開催し、立木の伐採や高性能林業機械の操作体験などを行いました。今年度までに3回開催され、いままで参加された36名のうち、実際に4名が事業者へ就業しています。一方、将来的に起業ができるよう、就業後も技術向上や儲かる林業を推進するなど支援体制を強化しています。

5 公有林化による森林整備の推進

新林業機械の導入を促進するための検証等も行い、生産量の増加を図っています。また、十分な木材流通・輸送体制を整えるため、サテライト中継土場の設置など体制整備を行っていきます。

6 おわりに

伐採したら植える林業サイクルを確立するためには、事業地の確保が欠かせません。また、適切な森林整備を進めるために、森林の境界を明確にする必要もあります。このようなことから那賀町では、平成24年から森林境界の明確化事業に着手しました。これまでに約6,600haを明確化し、森林の情報を林業事業者へフィードバックするとともに、森林GISを活用した管理運営を行っています。また、県や企業局の支援を受け、森林所有者の経営意欲がないなどの理由で売却希望のある公有林を対象として、公有林化を昨年度までに約480haを実施しました。さらに公有林周辺の山林を含めた集約化を行い、事業地を確保することにより、森林整備を図っていきます。

このように、那賀町の林業を横断的に集約し、産業連携によるネットワーク形成を進めながら、林業の成長産業化を目指したビジネスモデルを確立することとしています。また、豊富な森林資源を活用することにより、那賀町の森林整備や地域振興が図られるよう、今後も積極的に取り組みたいと考えています。